

# ぶらりわが街宮沢界限

## ⑬ 青梅鉄道 - II - 最初の新設駅中神停車場

青梅鉄道が明治27年(1894)11月19日立川・青梅間開業による、駅の設置は一村一駅とする規定により、当時九ヵ村で組合村をなしていた昭島では、最も西に位置する拝島村に「拝島停車場」が造られました。軽便鉄道でスローであったが、輸送力と便利さは、従来と比較にならないほどの大きなものであった。しかし、立川・拝島両駅の間にある村の人々にとっては、利用するには、相当の距離を歩かなければならず、特に、中間に位置する中神村の人々が不便さを解消するため、両駅の間に「中神停車場」を新設しようと運動が起こり、敷地買収費用の寄付金を徴収し、さらに運動拡大を計り、組合村の決議として八ヵ村(中神・宮沢・大神・田中・上川原・築地・福島・郷地)代表は、立川―拝島間は他の駅間を比べて最も遠距離(6.9km)であり、中間村民のために新駅を設置すべきであるという申請書を明治31年(1898)12月22日青梅鉄道へ提出。しかし、この要求は実を結ばず設置は、それから10年後の明治41年(1908)7月19日であった。「中神停車場」は立川―青梅間では最初の新設駅であり、この運動への村民の動きは、鉄道の良さを認め期待する気持ちの表れでした。同年2月18日軌道改築(改軌762→1,067mm(現在の軌道))し、軽便鉄道を脱皮した年である。その後、昭和18年(1943)7月21日立川・中神間複線化。その頃、中神駅陸軍航空工廠(こうしょう)引込線開通したが、昭和53年(1978)7月1日中神空軍側線(米軍接收後線名)撤去。平成1年(1989)12月26日中神駅橋上駅舎完成(北口開設)。

### ○ 立川飛行場(陸軍航空廠(しょう))や軍需工場のための駅開業及び専用引込線鉄道

- ・ 「西立川駅」―所在地は立川市ですが、構内の半分は昭島市に属している。

大正11年(1922)完成の陸軍立川飛行場や相次ぐ関連施設のため、昭和5年(1930)7月16日「西立川停車場」として開業。無人駅で現在より200mほど立川寄りあった。翌6年(1931)10月現在地に移り、昭和10年(1935)立川陸軍航空廠への軍用引込線敷設、西立川空軍側線(米軍接收線名)経過は撤去。昭和58年(1983)10月に立川基地跡地に国営「昭島記念公園」開園、現在は多くの行楽客が利用している。

- ・ 「昭島駅」―昭和34年(1959)10月1日「昭和前駅」より改名

昭和飛行機が雑木林の中を進出し、工場建設に取り掛かる少し前、昭和12年(1937)6月19日昭和飛行機元地主代表が駅設置を青梅鉄道へ要請、用地や資金の提供を受け、昭和13年(1938)12月25日「昭和前駅」正式開業。まもなく、軍需専用線も敷設、昭和前空軍側線(米軍接收線名)経過は撤去。昭和58年(1983)6月1日昭島駅橋上駅舎完成により、北口が開設され近代的な駅になり、一大商業ゾーンの乗降駅として利用されている。

- ・ 「東中神駅」―板張りの駅舎や北口臨時改札口など停車場のイメージを残す

昭和15年(1940)当時、西立川駅から中神駅にまたがる北側一帯に軍需工場「名古屋工廠」を建設していた陸軍が配慮を要請、昭和17年(1942)7月1日「東中神駅」開業。

記 防犯宮沢支部会計 西山 禎一



大正中期の中神駅風景 (川島新作氏画)

